

平成30年第1回 日高市教育委員会会議録

開催の日時	平成30年1月24日（水曜日） 午後1時44分から3時30分まで
会議開催の場所	市役所503会議室
会議の公開又は非公開の別	公開。ただし表彰案件については非公開。
非公開理由	個人に関する情報が含まれるため。
出席委員の氏名	中村一夫（教育長）・矢次健志・島村由起男・神山好子・井上三枝
欠席委員の氏名	なし
説明員の職氏名	教育部長 関口正明・教育部参事 島津芳久・教育総務課長 鈴木雅広・学校教育課長 稲村浩之・学校教育課副参事 松崎努・生涯学習課長 関根俊介
出席した事務局職員の職氏名	教育総務課主幹 菊地誠治
傍聴者数	0人
会議資料の名称	会議次第・教育長報告・議案第1号・配布資料一覧

議題及び決定事項等

議案第1号 日高市教育委員会表彰に係る被表彰者の決定について
原案どおり可決

会議の経過

1) 前回会議録の承認事項 出席委員異議なく承認

2) 教育長報告の要旨

○校長会議、教育委員会部課長会議における教育長指示・伝達内容について報告した。

○その他、各部課長から、実施した事業等の結果と今後の予定を報告した。

3) 教育長報告についての質疑及び答弁の要旨

【教育長報告関連】

(委員) 人事評価校長最終申告教育長ヒアリングについて、評価をして、良くない評価とされた教員は、その後、意識が変わっていつているのか。

(学校教育課長) まず、この評価については、教員が、学級の実態や自分の能力を踏まえて、それぞれ目標を立て、取り組んだ後に自己評価をしたものを校長と面談し、良くできた部分と改善すべき部分を評価していくものである。教員の意識の中で、漫然と取り組んでいた仕事の進め方について、PDCA（プラン、ドゥー、チェック、アクション）の考え方に基づいたところでの、チェックにあたる

部分であり、教員の意識改革につながっていると感じている。また、この面談を校長と教員の話し合いや相談の貴重な機会ととらえている。この評価制度で重要な部分は、評価を通して自分を変えていくこと、教員としての資質を上げることである。

(委員) このような面談の場だけでの話し合いの機会というのは、コミュニケーション不足と思われるので、常日頃からコミュニケーションをとるように改善したほうが良いのではないか。

(教育長) 校長によって、コミュニケーション能力の差があるところは感じている。学校を良く見て回り、子どもたちや教員に常に声をかけている校長もいれば、あまり声かけをしていない校長もいる。校長会議や様々な機会において、常に指導している部分である。この評価については、自分を俯瞰して見ることのできる機会でもあるととらえている。

(委員) 県公立高校の試験について、志願先の変更は1回認められているが、志願先の倍率によって変更することに合格に対する効果はあるのか。志願先変更により、変更前の志願先での倍率より上がってしまうなどのリスクもあるのではないか。

(学校教育課副参事) 今までは、2回、変更の機会が設けられていたが、1回目の変更について、様子見が多く、動きがない状態であったことから、2回にする効果がなく、変更の機会は1回となったところである。基本的には、志願先については、どの学校で学びたいかということが主体であるが、実際、倍率を見て志願先を変更することは、倍率が集中してしまった場合など、あり得るところである。

(教育部参事) 生徒の経済的な条件などにより、公立のみ志願する場合、志願先の倍率が高いなどによって、志願先を変更するかどうかの話し合いをすることはある。

(委員) 武蔵台公民館のサイボクハムを訪問する事業について、参加費用は。

(生涯学習課長) 大人が3,000円で、子どもが2,000円となっている。ランチ及び温泉入浴も含まれる。

(委員) サイボクハムならではのサービスがあるということではないのか。

(生涯学習課長) 施設の案内などもある。

(委員) 図書館のビブリオバトルについて、日高高校は先生方が行うとあるが、生徒が行うのではないのか。

(教育部参事) 日高高校では、まず、先生方が見本を見せ、その後に生徒が行っており、ビブリオバトル当日に生徒数名に参加いただいた。松山高校では、詳細な手法は不明であるが、全員が1年生から取り組んでおり、自信のある生徒などがビブリオバトルに参加しているとのことである。

(委員) 高萩北公民館の日光街道杉並木講座について、杉並木保全会などによるものか。

(生涯学習課長) そのとおりである。

【教育長報告：資料1関連】

(委員) 学力向上に向けた研修会における講演の講師について、県教育局から迎えて開催したとのことであるが、県による学力調査に関して、学校と個人について、実力が不足している部分を継続的に調査し、改善していく狙いがある中で、この学力調査が、個人の学力の伸長にどのように活用されるのか。また、活用していくのか。

(教育部参事) 県で実施している学力調査の一番の特徴は、全国学力調査と違い、毎年、小学校4年生から中学校3年生まで継続してテストを受けることにより、個人の学力の経年変化が把握できる調査となっている。例年、4月にテストを受けて、結果が夏休み前に分かるので、各学校で夏休み中に結果についての分析を行い、2学期からの授業改善やそれぞれの児童生徒に不足している部分の補完をしながら進めているところである。まだ、結果に対しての改善手法などは確立していないが、県からの資料などを参考に指導をしている状況である。

(委員) 現場でどのように活用していくかということまでは、定まっていない状況ということか。

(教育部参事) 前年度の学力について、個人ごとに追跡できるので、学年が上がり担任が変わっても、指導方法の改善などに継続性を持って対応できるようにはなっている。

(教育長) 県も、伸びのあった児童生徒及び学級において、どのような指導方法が良かった点であるのか、事例の収集と把握に努めているところである。

(委員) 大きな予算を使って進めている事業であるので、結果分析だけで終わるのではなく、学力向上の効果が発揮できるように、具体的に活用していくことについてお願いします。

(教育部参事) ある小学校では、学級経営が基盤であると仮説を立て研究している中で、学級満足度調査(ハイパーQ U)の結果と学力の伸びの相関関係により、課題を抱えている児童が、学級の中でどのようなポジションに代わると学力の伸びが見られるかを追跡している状況であり、一定の効果が得られれば、手法を他の学校へ紹介していく。

(委員2) この研修会が有意義であったということであるが、講演の中における大切な要点は何であったか。

(教育長) 学力調査を実施して、単に平均点を上げるといったようなことではなく、子どもたちがいかに伸びるかということに目を向けていきたいとのことであった。学力調査について、まだ2年目であるが、相関関係を見ていくと学級経営やアクティブラーニングなどが重要で、数値にも表れている状況とのことである。

(委員2) 以前から申し上げているが、手を差し伸べて教えるのではなく、自分から前向きに調べたりすることなど、いかに興味を持たせるかということが重要で

ある。その部分は、学力調査から読み取れるものではない。児童生徒に興味を持たせるといことは非常に難しい問題であり、教員の指導力も問われるため、極論であるが、教員についても指導力の調査を実施しても良いのではないか。

(教育長) それぞれの学校の通常授業なども視察に行くが、児童生徒に自主的な部分を促す前に、どうしても教員が口を出してしまう状況が見受けられる。その部分については、以前から注意している部分ではある。

(委員2) 子どもたちと信頼関係を築けないと、子どもたちが気づいたときや意識の変化の瞬間を見逃すことになる。常日頃から子どもたちを注視し、気づく能力が、教員に求められている指導力につながるのではないかと思う。

(委員) 文部科学大臣優秀教員表彰において、選定基準はどうなっているのか。

(教育部参事) 事前に、校長及び教育委員会が推薦し、県の優秀教員表彰があり、表彰者について県が国に推薦し、その中から選定される。今回、表彰を受けた教員については、地域の産業などに目を向け、栗の栽培農家、栗のお菓子の生産者などをゲストティーチャーとして招いたほか、自分の足で地域を回り、教材集めをしながら授業展開をするなどの工夫が認められたものである。

(委員) ゲストティーチャーには、謝礼などの対応はしているのか。

(教育部参事) 謝礼は出していない。

(教育部長) 今回のゲストティーチャーの団体については、栗の産業育成の関連で、産業振興課において支援をしており、小学生など広範囲に産業への理解を広めるためにも重要な機会ととらえていただいたものである。

(委員) 小学生にとって良い機会となることであるし、市の施設の利用券を渡すなど、気持ちを見せても良いのではないか。

(教育部長) ホームページで受賞報告などの支援はしているが、ほかの部分の支援についても検討していきたい。

(委員) 小学校の教員ということで、一つの科目に特化してすぐれているのか、社会以外のほかの科目の授業についての指導力はどうか。

(教育長) やはり、子どもたちのやる気を引き出す指導に長けている教員は、どの教科においても指導力を発揮できる。

(委員) 成人式について、終了後に会場を出る際に、騒がしい車が見受けられたが、このようなケースは毎年あるのか。

(生涯学習課長) 近年は静かであり、久しぶりの状況であった。

(委員) 成人式に保護者が入場して良いかが分からず、入場可能であれば案内が欲しいという意見があった。

(生涯学習課長) 全ての保護者が入場すると、会場の座席が不足してしまうこととなるので、積極的に案内はしていない。会場にお越しの保護者への案内はしている状況である。

(教育部長) 会場に限りがあるが、観覧は可能というような案内ができるかどうか研究したい。

(委員) 小中一貫教育のスケジュールについて、ある学校では、何年後に建物廃止とかの話が出ている。まだ、スケジュールは示されていないと認識しているが、スケジュールが決まっている学校はあるのか。

(教育部長) こちらからスケジュールを示したことはない。小中一貫教育の方向性を総合教育会議などで議論し進めている中で、その情報を基に地域の方がいろいろお考えになり、様々な意見が出ている。未確定な話が、独り歩きしている状況と思われる。今後、協議や議論を進め、保護者や地域の方々に広く周知をしていきたい。

(委員) ひだか郷土かるた大会について、県の大会に行く際には、使用するかるたは県のかるたになるのか。子どもたちは、県のかるたで練習できる機会はあるのか。

(生涯学習課長) 県に出場が決まった段階で、講習会や練習会がある。各学校にも県のかるたを用意している状況である。

(教育長) 市のかるたで練習し、さらに県のかるたで練習することになるため、県内の子どもたちとのハンデはあるが、主の目的として、郷土を知ってもらうことにより愛着をもってもらうこととしているので、かるたが県大会では変わることについて、ご理解をお願いしている。

(委員) 各地区において、出席率の高い地区はどこか。子ども会がある地区か。

(生涯学習課長) 高麗川、高萩が多い。子ども会の有無にかかわらず、別の組織により参加している状況もある。

(委員) ほかのイベントにおいても言えるが、集団でいる機会が多いとインフルエンザなどの感染が広がりやすいことを考慮すると、冬の開催ではない時期への変更は難しいか。

(生涯学習課長) 現在の状況では、年間を通してイベントがあり、冬にイベントを実施しないことは難しい。個々の参加者に気を付けていただくことでお願いしたい。

4) 議案についての質疑及び答弁の要旨

議案第1号 非公開のため記載せず

5) その他

(1) 次回定例会の日程等について

○2月定例会：2月22日（木曜日）午後2時00分から 委員了承

○3月定例会：3月20日（火曜日）午後1時20分から 委員了承

(2) その他連絡事項

○平成29年度中学校卒業式

3月15日（木曜日）午前【各中学校】

○平成29年度小学校卒業式

3月22日（木曜日）午前【各小学校】